

## 人々を助ける税金

兵庫県立佐用高等学校

二年 森 本 真 央

私は九年前のお盆に母方の祖父母の家に居た。その日、私は宿題をしながらゆっくり過ごしていた。兄は外で遊んでいた。私がちょうど廊下に出た時、兄が家に入ってきた。

「お母さん呼んで。」

と兄は泣きながら私に言った。その手元と足元は血で赤く染まっていた。機械で人差し指を切ってしまったようだった。母はすぐに救急車を呼ぼうと、電話の前に立った。兄は泣き叫び、祖父母は兄に声を掛け続け、そして母は冷静に消防署の方と電話越しに話す。私には、この時間がとても長く感じたのと同時に、電話をする母を見て、「ほんとに救急車が来るんだ。」と怖くて怖くて仕方がなかった。電話が終わってから数分後には救急車のサイレンが聞こえ始め、兄は病院に運ばれていった。兄は大事には至らず、その日の夕方には帰ってきた。

その後、兄は週に何度か通院した。しかし、すべての診察料などは0円と聞いた。また、母からは税金で救急車は動いているから、私たちが運ばれる時も0円なんだということを聞いた。アメリカなどでは救急車で運ばれると、高額を払わなければならないということ

を知っていた。だから、てっきり日本もそうだと思っていた。とても驚いた。

私たちの住む日本では、「税金ばかり払わされる」と言う人が多くいる。正直、私もそう思っていた。でも、もし税金がなかったら、救急車で運ばれる時の料金も、治療費もすべて払わなければならない。その状態だったら、私の兄も運ばれていなかったかもしれない。指を切断しないといけなかったかもしれない。血が止まらなかったかもしれない。

そして、私の兄を助けてくれた消防士も、国を守ってくれる警察官も、私たちに様々なことを教えてくれる教師も、多くの公務員の方は税金があるから給料がもらえる。まだ私は高校二年生で、消費税ぐらいしか払わない。しかし、一年もしない間に十八歳になり、成人する。高校生から専門学生、もしくは大学に進学し、もし公務員になったら税金で給料をもらう。公務員でなくても税金を払う。これからは消費税以外にも、多くの税金を払っていくことになるが、しっかり払っていきたいと思った。

そして、私の兄も成人し、音大生だ。あの九年前のお盆に兄が運ばれていなかったら、兄は音大生になっていないかもしれない。あの日、すばやく運んでいたとき、適切に治療していたのだのおかげで、兄は指を使うユーフォニアム、大好きな音楽を続けられている。

日常生活で様々な税金を払い、兄の命を助け、そして音楽の道に進むという兄の夢を叶えてくんだり、感謝してる。これからは、私が家族、そして多くの人々を税金で守っていきたいと思った。

